

Vol.**01**

テーブル

画像付きで解説

「テーブル」を使うと、

入力内容の増減に応じて行の追加や削除ができます。

「日報」アプリを例に一緒に設定してみましょう!

\よくある活用シーン/



1日に得意先を複数訪問するような ルート営業が、その日の訪問先の数だけ 行を追加して活動を報告したいとき



一度に複数の商品の注文を

受け付けるときに、

商品の種類によって

必要な分だけ行を追加したいとき





目次

テーブルとは	3
テーブルの導入前/導入後のイメージ	4
テーブル導入前	4
テーブル導入後	5
テーブルの設定方法	6
Step 1 テーブルを配置する	7
Step 2 テーブルを設定する	11
Step 3 アプリを更新する	13
Step 4 テーブルを使ってみよう	14
テーブルにフィールドを追加する	15
テーブルの活用例	16
タイムカード	16
交通費精算	17
お問い合わせ管理	17
もっと便利に使うには	18
一覧画面でテーブルの内容を確認したい	18
おすすめコンテンツ一瞥	20

テーブルとは

テーブルとは、レコード登録・編集時に、入力内容の増減に応じて、行の追加や 削除ができる機能です。

たとえば「注文管理」アプリにテーブル機能を利用すると、注文内容にあわせて 必要な分だけ注文商品の行を追加できます。



テーブルの主な用途

テーブルは、以下の用途でよく使われます。

- 一つのレコードに対して、対応した履歴を1画面で管理したいとき
 - ○「資料管理」アプリで、資料の変更履歴を残したい
 - ○「面談履歴管理」アプリで、 面談対象者に対しての面談の記録を入力したい
- 一つのレコードに同じ項目を複数回入力する必要があるとき
 - ○「注文管理」アプリで、1回の注文に複数の商品の注文がある
 - ○「見積管理」アプリで、1回の見積もりで複数の商材を提示する

テーブルの導入前/導入後のイメージ

「 テーブル導入前)



一度の注文で想定される

商品の種類の数だけフィールドを用意していた。

課

題

✓ 想定される注文にあわせて、 あらかじめフィールドを配置しておく必要があるため、 注文内容を確認するときの視認性が悪い

✓ 注文商品の数が、配置されているフィールドの数を 超えた場合に入力できない



「 テーブル導入後)



注文商品のフィールドを、

テーブルで作成すると…

メリット

- ✓ 必要なフィールドだけを配置するので、 注文内容を1画面で確認しやすい
- ✓ 注文商品の種類に応じて、 行数を増やすことができる



テーブルの設定方法

アプリでテーブルを設定する方法を説明します。

なお、ここでは例として「日報」アプリにテーブルを設定し、1日に複数の得意先を訪問する ルート営業が、それぞれの訪問先と内容を日報に入力できるようにします。

※ 本ガイドに沿って同じ操作を行ってみたい場合は、アプリストアから 「日報」アプリを追加してください。追加方法は以下のヘルプをご参照ください。

kintoneヘルプ「サンプルアプリを追加する」

https://jp.cybozu.help/k/ja/id/040622.html



これから1つずつ一緒に設定していきましょう!



テーブルを配置する

テーブルにしたいフィールドを配置します。

ここでは「訪問時間」「訪問先」「訪問目的」「添付資料」の4つのフィールドを配置します。

1 テーブルの設定画面を開く

「日報」アプリの画面で☆アイコンをクリックします。



2 フォームの設定画面で、テーブルをフォームに配置する

画面左側のフィールド一覧から「テーブル」をフォームに配置します。



3 テーブルに含めるフィールドを配置する

手順2で配置したテーブル内に、画面左側のフィールド一覧から「**時刻」「文字列(1行)**」「**文字列(1行)**」「**次字列(1行)**」「**添付ファイル**」をドラッグアンドドロップし、横並びに配置します。



4 フィールドの名前を変更する

テーブル内に配置したそれぞれのフィールドにポインタを合わせ、 右上に表示される☆ アイコンの「**設定**」をクリックし、

「フィールド名」をそれぞれ「訪問時間」「訪問先」「訪問目的」「添付資料」に変更します。







※ フィールドを先に配置してから、その行をテーブル化する方法もあります。 フィールドを並べた行の右端の アイコンにポインタを合わせて 「テーブルの設定」をクリックし、「この行をテーブルにする」をクリックしてください。





2

テーブルを設定する

1 テーブルの名前を変更する

テーブルにポインタを合わせ、右上に表示される☆アイコンから「**テーブルの設定**」をクリックし、テーブル名を設定します。ここでは、「営業活動」と入力します。





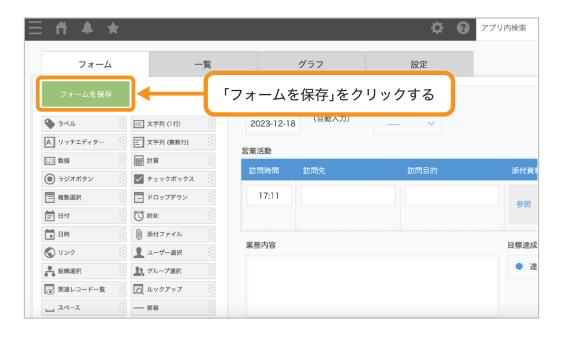


設定したテーブル名は、アプリのフォームやレコード一覧に表示されます。



2 フォームの保存をする

画面左上の「フォームを保存」をクリックします。





テーブルの設定が完了しました。

アプリを更新する

画面右上の「アプリを更新」をクリックして、運用環境に適用します。



便利なテーブルですが、利用する上でいくつか知っておくべき注意点があります。

- 一度テーブルにすると、元に戻せません。
- 次のフィールドは、テーブルに含めることはできません。
 - すでに使用中のフィールドーラベル、関連レコード一覧、スペース、罫線、 グループ、テーブル、レコード番号、作成者、更新者、作成日時、更新日時
- テーブル内のフィールドは、ルックアップフィールドの 「コピー元のフィールド」や「ほかのフィールドのコピー」および 関連レコード一覧フィールドの「表示するレコードの条件 | には指定できません。

テーブルを使ってみよう

「日報」アプリでレコードを追加し、必要に応じてテーブルの行数を増やしながら、 テーブルを使ってみましょう!







テーブルにフィールドを追加する

作成したテーブルには、あとから新しいフィールドを追加していくことができます。

※ 使用中のフィールドをテーブル内へ移動したり、 テーブル内のフィールドをテーブル外や他のテーブルへ移動したりはできません。





お疲れ様でした!

テーブルを使うと柔軟に行数を追加できるので、 複数のデータを一つのレコードで管理したいときに 便利です。

さらに、計算式を使用して、テーブル内の 数値項目の合計を算出するといったことも可能です。 詳しくは、「Vol.02計算」を参照してください!



テーブルの活用例

タイムカード

テーブルを利用すると、1ヶ月分の勤務状況を一つのレコードでまとめて 管理することができます。

また、テーブル内の数値を計算することで、

1ヶ月分の勤務時間や残業時間を集計することができます。



交通費精算

テーブルを利用すると、1ヶ月分の交通費の明細を必要な行数分追加して登録できます。 また、テーブル内の数値を計算することによって、1ヶ月分の交通費の合計金額を集計できます。



お問い合わせ管理

1つの問い合わせに対して、やりとりが複数回発生する場合に、テーブルを利用してやりとりの履歴を管理することができます。



もっと便利に使うには

レコード一覧画面でテーブルの内容を確認したい

一覧の設定画面でテーブルフィールドを追加すると、

レコード一覧画面の「表示する」リンクからテーブルの内容を確認することができます。 なお、テーブル内のフィールドを常に表示しておくことはできません。

一覧の設定画面



レコード一覧画面







お疲れ様でした! これであなたもテーブルマスターです!





おすすめコンテンツ一覧

このガイドブックを活用してくださったあなたへ kintoneをもっと便利に使いこなすためのコンテンツを紹介します!



講師に教えてもらいながら機能を学びたい方

kintone ハンズオンセミナー 便利に使おう講座

便利に使おうガイドブックをなぞって、実際に操作しながら演習を 通じて機能を学ぶことができます。

https://page.cybozu.co.jp/-/cy-handson-k/

※定員に達し次第受付終了となります。あらかじめご了承ください。



マニュアルを見ながら自分で設定したい方

kintone ヘルプ

本ガイドに掲載しきれなかった、より細やかなkintoneの操作方法や、 各機能の設定方法の手順をご確認いただけます。

https://jp.cybozu.help/k/ja/



ヘルプを見ても解決しなかった・操作方法に困った方

カスタマーサポート

電話、メールまたはチャットでお問い合わせいただけます。

「こんなことで問い合わせてもいいのかな?」というときも、安心してご相談ください。

サイボウズのサポートメンバーがよろこんでお手伝いします。

https://kintone.cybozu.co.jp/support/tel.html



kintoneの基礎について学びたい・導入したばかりの方

kintone スタートガイドセミナー

導入から社内への浸透・定着までに必要なことを4つのステップで学ぶ ことができるセミナーです。4ステップを60分以内で学べる動画も公開中。

https://kintone.cybozu.co.jp/support/arukikata/kintone-startguide-seminar/

